

事業報告書

団体名：特定非営利活動法人プロジェクト保津川

1. メニュー名	(1) スタート事業 該当するメニューを○で囲んでください (2) ステップアップ事業 (3) 市民連携事業
2. 事業名	保津川に筏を流して、みんなですのこをつくろう！
3. 実施場所	市民の森・長尾山、保津川（保津大橋～山本浜）、安詳小学校
4. 実施期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日
5. 目的と課題	支援金申請書に書いた、申請事業の目的と設定した地域の課題を改めて記入してください。
<p>亀岡盆地を貫くように流れる保津川（桂川）は、丹波のシンボルともいべき川であり、保津川下りやトロッコ列車に代表されるように地域の重要な観光資源でもある。しかし、近年は漂着ごみ問題や水質悪化など課題が山積している。</p> <p>こうしたなか、当団体では亀岡市などとの共催で内陸部では初めてとなる「第10回海ごみサミット亀岡保津川会議2012」を開催するなど、世界的な問題となっている海ごみの発生抑制に向けた取り組みを進めている。海ごみの大半は川を通じて運ばれた陸域由来のものであり、保津川の漂着ごみ問題の解決は海洋環境の保全にも貢献するものである。しかし、漂着ごみの多くが生活ごみであることから問題解決には地域住民の河川環境への関心をいかに高めるが大きな課題である。</p> <p>そこで本事業では、保津川の筏流しの復活を通じて「山と川、まちのつながり」の再生をめざす。保津川の筏流しは1300年前に始まり京の都を支えてきたが、近代以降の鉄道の開通やトラック輸送の普及と共に衰退し、戦後完全に途絶えた。現在では筏士も2名を、筏組みに不可欠な金具を製造する鍛冶職人も1人を残すのみとなり、長年続いてきた保津川の文化遺産・技術遺産ともいえる筏流しの伝統を次世代にどう伝承するかは喫緊の課題である。</p> <p>また、森林の荒廃は保津川流域でも深刻であり、保津川の水質保全のために林業への関心を高め、里山の再生は急務である。しかしながら、現在では、里山もまた暮らしから遠い存在となり、林業はおろか、子供達の「遊び場」としてすら機能していない現状がある。また、PTAにおいても、河川や里山を過度に「危険箇所」とし、子供達が自然と親しむ機会を遠ざけてきた経緯がある。</p> <p>そこで本事業では、山と川、まちをつなぐシンボルとして筏を位置付け、筏に組む材木を山から切り出し、その材木で筏を組み、そして筏で運んだ材木を製品に加工する一連の工程を地域の小学校の児童およびその保護者、教職員と一緒に体験することで、地域の森林を守ることの大切さや保津川の歴史や文化を学ぶことをめざす。</p>	
6. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。（実施スケジュール、会場、内容、講師名、参加者数、参加者の声、その他情報など）
<p>「林業を体験しよう」（市民の森・長尾山、中止）</p> <p>▶ 当初、夏休み前の開催を予定していたが、学校行事等の日程調整のため、8月～9月に予定を変更して実施を検討した。しかし、7月以降、豪雨や台風が相次ぎ、土砂崩れや倒木が多数発生したこ</p>	

とにより、事業を延期することとした。

「いかにのってみよう！」(9月8日、保津川、15日に延期、増水により中止)

- 親子連れを対象に保津川の河川敷で伝統的な技法による筏を組み、保津川下りの船頭の監督の下、試乗体験を実施する。また、筏流しの歴史を紹介したパネルの展示や、筏組みに必要な道具の展示などを通じて、保津川の水運文化を広く発信することを企画していた。しかし、当初の9月8日は台風接近により15日に延期、また15日も安全な水位まで下がらず、中止となった。300

「里山を、あそぼう！」(12月22日、市民の森・長尾山、中止)

- 篠町まちづくり推進会長尾山部会、安詳小学校 PTA との共催により「市民の森・長尾山」での林業体験イベントの実施を計画した。伐採した材木は12月の嵐山での筏流しイベントで活用する予定としたが、雨天により中止。
- 安詳小学校はじめ篠町内の各校・園にはチラシを配布。そのほかは WEB で広報した結果、当日の参加予定者は51名(スタッフ除く、大人21名、子供30名)であった。

嵐山での12連筏の再現(2月2日、嵐山)

- 前年度に引き続き、亀岡ほか丹波産の材木を使い、保津川の筏流しの終着点である嵐山で保津川本来の筏である12連の大筏(全長約50m)の再現に取り組んだ。
- この取り組みでは、将来の保津峡での木材搬出に向けた操縦技術の習得に努めた。
- 本年度初の取り組みとして、前年の反省を踏まえ外国人向けのチラシも作成した。また京都学園大学の学生によるパネル展示や解説(外国語含む)も行った。
- 筏材を活用した商品の製品化をめざすため、2月に実施した嵐山での筏流しに用いた材木を用いたカトラリー(食器)のデザインを公募した。

「すのこをつくろう！」(3月15日、安詳小学校)

- 筏流しに用いた材木を製材の上、老朽化の著しい昇降口の「すのこ」を親子で製作し、学校に寄贈した。
- 地元産材木による筏流しに用いた材木の活用を通じて、地元の山や川を普段の学校生活の中で感じる機会を提供することをめざした。なお、当初はすのこの制作は親子イベントとして実施する予定であったが、間伐材の乾燥・製材に予想外の時間を要したため納期が遅れたこともあり、保護者による設置作業のみとした。
- 製材は丸昇木材(曾我部町)、設計・施工は松下工務店(篠町)に依頼し、PTAを通じて保護者・児童への設置・搬入のボランティアを募った。

7. 成果と課題

事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果と課題を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。

本事業を通じて、山林や河川の現状を参加者が学ぶと共に、保安林整備としての間伐の促進など環境保全をさらに進め、地域における環境保全の取り組みの重要性を若い世代にも広く認知してもらうことをめざした。

<アウトプット>

「林業体験活動」「いかにのってみよう」は残念ながら延期・中止となったが、学校や地域でのチラシ配布をはじめ、多くの人に荒廃する森林の現状などを伝えることができた。嵐山での12連筏の再現に

は外国人観光客も含む多数の来場者があった。また、メディア（毎日新聞、京都新聞）でも大きく取り上げられ、本事業の成果を広く広報することができた。

<アウトカム>

一連の取り組みを通じて、地域の自然環境や伝統文化に関する関心を高めることを目標とした。本事業の協働のパートナーである安詳小学校 PTA は、亀岡市内最大の会員数をもつ PTA であるが、その一方で学校行事や PTA 活動への関心の低下は大きな課題となっていた。今回の取り組みを通じて、多くの保護者や児童が地域に眠る資源に気づき、単に物品を購入して学校に不足している備品を寄付するだけではない、学校設備を充実させる方法があることに多くの保護者が気づいたことが成果であった。また、PTA にとっては本支援金のような外部資金の獲得は初めての経験であり、今後の PTA 活動の推進にあたって、主たる財源が会費収入だけという中で、活動の縮小が続く PTA のあり方を考える大きな機会となった。さらに、材木の製材やすのこの組み立てに際しては、市内企業の協力をいただき、一連の作業を通じて地域とのつながりの強化にもつながった。

8. 今後の展開 事業の実施成果と課題を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。

安詳小学校における「すのこ」の製作に関しては、必要個数を製作し、本年度で終了するが、間伐の促進や材木の利活用、筏流しの担い手育成については、今後も継続的に取り組んで行く予定である。以下に、今後の見通しについて記す。

【筏流しの担い手育成】

これまでの取り組みを通じて、若手林業者や子育て世代とその子供達へのアピールは我々の想定以上に進み、地域の関心も高まっている。本事業の中核を担ってきた 40 歳代の保津川下り船頭らは筏組みに関しては十分な技術を習得しており、引き続き直近の将来の担い手となる 20 歳代の若手船頭への技術伝承に努め、安定的な人材確保を引き続きめざす。また、林業体験のような市内小学校等との連携企画を通じた子育て世代へのアピールは、これまでの WEB や回覧板を通じた広報と比べても非常に効果的であることが確かめられた。今後も市内の小中学校や PTA との連携を通じて、林業や筏流しについての理解を深め、ボランティア参加の機会を引き続き提供し、中長期的な担い手の確保・育成に努める。

【筏材の利活用と財政基盤の確立】

本事業は、これまで民間や行政機関の助成金、大学の研究資金などを活用して実施してきた。しかし、今後の安定的な運営のためには自主財源の確保が不可欠である。本年度は、本事業の WEB サイトの再構築 (<http://kyo-ikada.org> として公開) にも取り組み、情報発信の強化につとめた結果、材木の利活用について京都市内の宿泊施設などから内装材としての活用のオファーをいただくなど、安定的な財政基盤の確立にむけた取り組みも進展しつつある。また材木の供給源として、これまでの取り組みで、地域の課題として明らかになった保安林指定を受けた放置人工林の整備にも引き続き取り組むことで、地域の環境保全及び災害防止に貢献する。

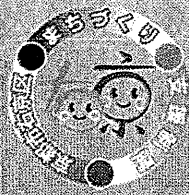
9. 協働の効果 今年度の事業実施にあたって、他団体等と協働（協力）された事例がある場合は、その効果や今後の関わり方について、記入してください。
※市民連携事業に関わらず、他団体との関わりがあった場合は記入してください。

前述のように、PTA との協働というこれまでにない形での事業の実施に取り組んだ結果、当団体にとっても、子育て世代を中心とした若年層への情報発信の強化を実現することができた。また、PTA にとっても NPO との連携による外部資金の獲得という新しい財源確保に取り組んだことは、今後の PTA のあり方を考える上で大きな意味をもつものとなった。さらには、地域団体（篠町町づくり推進会など）や上流の京北町地域との交流が深まったことも大きな収穫であった。

今後も、引き続き本事業を通じて、流域の諸団体との連携を深めるとともに、保津川の歴史・文化として後材の価値の創出に取り組むことで新たな市場の創出にとつとめ、流域の環境保全に資することをめざしたい。

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料がある場合は添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。



京都市右京区まちづくり支援制度交付金事業
 京都府地域力再生プロジェクト支援事業交付金事業
 平和堂財団環境保全活動助成事業「夏原グラント」助成金事業
 亀岡市支えあいまちづくり協働支援金事業



京都嵐山

大堰川に筏が流れます

かつて京の都は大堰川（保津川）
 の水運によって作られました。
 伝統の十二連筏（約50m）に
 見て触れて、雄大なる嵐山と
 壮大なる筏の歴史を
 実感してください。

とき：平成31年2月2日（土）

午前中 嵐山通船北浜にて筏組み。
 千鳥ヶ淵にて12連（約50m）
 の筏に仕上げる。
 午後2時頃 千鳥ヶ淵付近より筏流し

場所：渡月橋より上流にて
 見学無料

主催：京筏組（保津川筏復活プロジェクト連絡協議会）
 京都学園大学民俗学研究室 NPO 法人プロジェクト保津川
 後援：一般社団法人京都府木材組合連合会 京北銘木生産協同組合
 京北森林組合
 協力：嵐山保勝会 嵐山通船株式会社 琴ヶ瀬茶屋
 京都府立林業大学校 有限会社南丹運送 保津川遊船企業組合

◆ 問い合わせ先
 京都学園大学民俗学研究室
 ✉ folklore@kyotogakuen.ac.jp

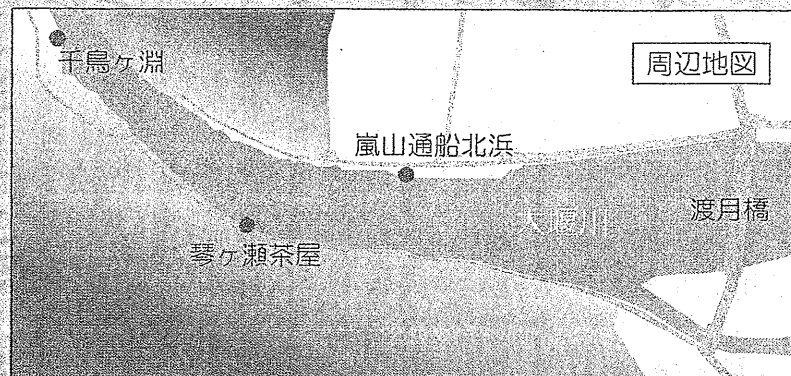
※雨天時の開催有無、イベントの進行
 状況はツイッターにてご確認ください。



@kyoikadagumi

◆ 保津川筏復活プロジェクト連絡協議会

公式サイト <https://kyo-ikada.org/>



表紙画像：明治～大正期の大堰川の筏流しの様子（絵はがき）



京筏組のご紹介

京都・大堰川(保津川)の筏流しとは?!

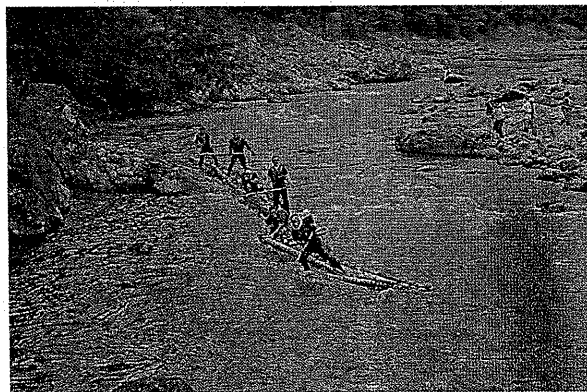
かつて、大堰川(保津川)には丹波山地で伐り出された材木を運ぶ筏流しが盛んにおこなわれていました。その歴史は古く、奈良時代にまでさかのぼるといわれています。

大堰川の筏流しは、材木や商品の運搬によって京の都の人々の暮らしを支えた一方で、たとえば足利尊氏による天龍寺造営や豊臣秀吉による大坂城や伏見城築城など、その時代の大事業においても大きな貢献を果たし、時の権力者からも特別な地位を認められてきました。江戸時代末期には経済の発達にともなって輸送も飛躍的に増加し、最盛期には毎年90万本もの材木が京都・大坂に送られ、大堰川流域は大きく栄えることとなります。

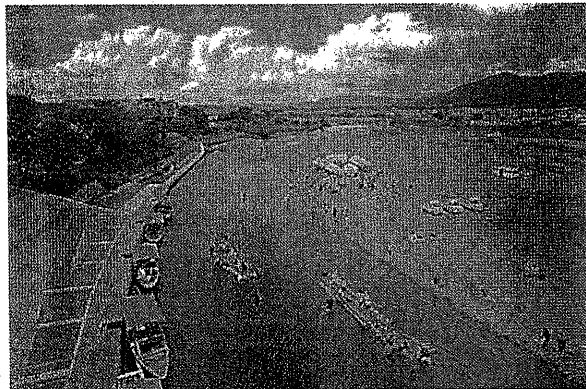
半世紀ぶりの筏復活をめざして!

古代から近世にかけて大きく栄えた大堰川の筏流しですが、明治・大正期の山陰本線の開通や国道の整備によるトラック輸送の普及とともに次第に衰退し、戦後しばらくして完全に途絶えてしまいました。そこで私たち、京筏組は、2007年8月に日吉ダム(南丹市日吉町)で行われた天若湖アートプロジェクト2007において、元筏士の方々の指導のもと、伝統的な技法による筏の復元を行いました。2008年に約60年ぶりに保津大橋(亀岡市保津町)からかつて筏の中継地であった山本浜(同篠町)まで、2009年に保津峡・落合から嵐山までの筏流しを復活し、さらに2014年亀岡、2017年嵐山にて、12連約50mの筏を復活することができました。また筏流しを広く知っていただくために2011年より試乗体験イベント「いかだにのってみよう!」を開催しています。2016年には一連の取り組みが評価され、第40回全国育樹祭(京都府)にて、京都府緑化等功労者「森の京都と木の文化発信部門」を受賞しました。

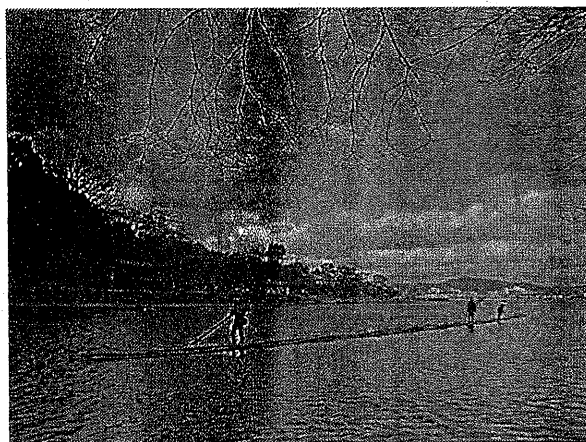
京筏組は、この貴重な歴史遺産を多くの方が体験し、かつて流域を結んだ川の営みを実感していただくことで、「筏がつなぐ歴史の記憶」を甦らせたいと考えています。



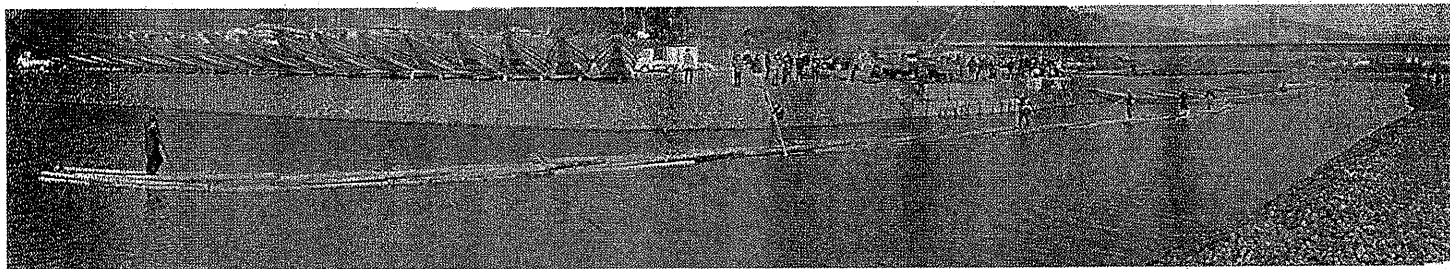
保津峡を下る筏 2009年9月9日



いかだ試乗会 2012年9月15日



嵐山で復活した12連筏 2017年12月17日



亀岡で復活した12連筏 2014年2月16日 写真提供:日向工房

京都学園大学 & 京都府立林業大学校のみなさん

京筏組のイベントでは、京都学園大学、京都府立林業大学校などの学生のみなさんが、各々専門知識や体力を活かし、筏の歴史の展示物の作成、いかだ作りやいかだ流しに活躍しています。若者たちが、大堰川の歴史を実体験し共有することで、大堰川の文化を次の世代へと引き継いでくれることを願っています。





京都市右京区まちづくり支援制度交付金事業
 京都府地域力再生プロジェクト支援事業交付金事業
 平和堂財団環境保全活動助成事業「夏原グラント」助成金事業
 亀岡市支えあいまちづくり協働支援金事業



大堰川有人在划木筏

以前の京都是由大堰川（保津川）取水運所养育取
 请您实际的取欣赏去体验
 雄大的嵐山传统十二连木筏（约50米）

时间 2019年2月2日（星期六）
 上午 在嵐山通船北浜① 做木筏
 下午 2点钟 从千鳥淵② 划木筏
 地点 渡月桥上游

参观免费!

◆ 問い合わせ先
 京都学園大学民俗学研究室
 ✉ folklore@kyotogakuen.ac.jp

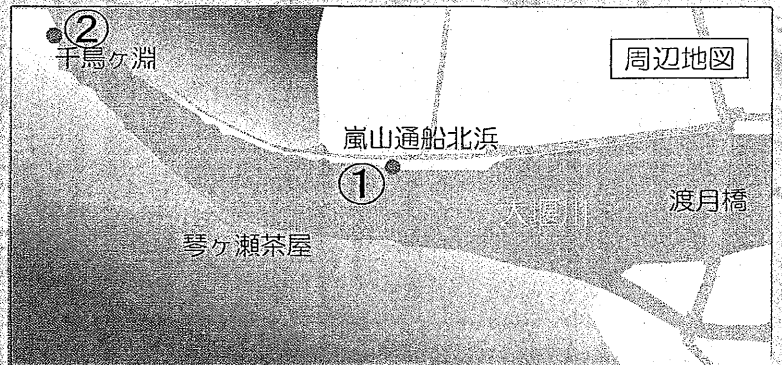
※雨天時の開催有無、イベントの進行
 状況はツイッターにてご確認ください。



🔍 @kyoikadagumi

◆ 保津川筏復活プロジェクト連絡協議会

公式サイト <https://kyo-ikada.org/>



表紙画像：明治～大正期の大堰川の筏流しの様子（絵はがき）



京都市右京区まちづくり支援制度交付金事業
 京都府地域力再生プロジェクト支援事業交付金事業
 平和堂財団環境保全活動助成事業「夏原グラント」助成金事業
 亀岡市支えあいまちづくり協働支援金事業



Rafts come floating down the Oi River (Hozugawa) in Arashiyama, Kyoto

Log rafting:
 Demonstration of the old way of bringing timber for buildings into Kyoto

Date: Saturday Feb 2, 2019

Place: 2 locations upstream from Arashiyama's bridge Togetsukyo (see map)
 Arashiyama Tsusen Kitahama
 Chidorigafuji

Cost: free

Details:

- During the morning the rafts will be built on the riverbank at Arashiyama Tsusen Kitahama ①
- At Chidorigafuchi all 12 parts of the raft will be put together, forming a 50m raft.
- From about 2 pm the raft will be leaving Chidorigafuchi ② to travel downstream.

◆ 問い合わせ先
 京都学園大学民俗学研究室
 ✉ folklore@kyotogakuen.ac.jp

※雨天時の開催有無、イベントの進行状況はツイッターにてご確認ください。



🔍 @kyoikadagumi

◆ 保津川筏復活プロジェクト連絡協議会

公式サイト <https://kyo-ikada.org/>



表紙画像: 明治~大正期の大堰川の筏流しの様子 (絵はがき)